

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
内科	初診	1 荒木	井上	水野	中川	能祖
	再診	2 住吉	岡本	石原	白神	河越
呼吸器科	初診	3 中川	河村	能祖	植松	荒木
	再診	4 白神	野田	河村	岡野	植松
循環器科	初診	5 中園	荒木	岡本	水野	河村
	再診	6 水木	岩本	住吉	水木	在間
	再診	7 井上	嶋谷	河越	井上	山崎
	再診	8 石原	栗栖	端	嶋谷	木島

【内】:内科 【呼】:呼吸器科 【循】:循環器科

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
外科	1	高倉	二宮	大野	高倉	二宮
	2	原野	小野田	塩崎	丁田	小野田
	3	—	—	西崎	—	青木
乳腺・内分泌外科	(3)	桧垣	小野	—	桧垣	—

※ただし、水曜日は、桧垣14:00～予約のみ診療有り

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
整形外科	初診	中村	小山	西川	大石	曾田
	再診	西川	大石	中村	曾田	小山
リウマチ・膠原病科	初再診	山西	山西	—	山西	山西
予約再診	大岩	大岩	—	大岩	大岩	—

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
形成外科	1	身原	木村	北浦	身原	木村
	2	—	北浦	—	北浦	—
	3	—	身原	—	神野	—
	午後(予約制)	—	言語外来	義眼眼鏡外来	レーザー	—

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
脳神経外科	1	寺田	浅野	目黒	西野	廣常
	2※1	西野	目黒	廣常	寺田	浅野
	脳ドック※2	—	西野	目黒	—	—

※1. 火・木曜日の2診の診療は午前9時30分までです。 ※2. 9:30～10:30

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
小児科	1	伊予田	岡崎	伊予田	村尾	伊予田
	2	村尾	小川	加藤	小川	村尾
	3	鎌田	小池	鎌田	中川	木口

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
小児外科	4	今治	—	高田	高田	—
専門	未熟児	未熟児	—	(午後)	未熟児	—
	林谷	野村	—	乳児健診	中田	—

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
産婦人科	初診	吉田	野間	吉田	伊藤	小坂
	初再診	小坂	吉田	大石	橋本	辰本
	産科	橋本	高橋	伊藤	野間	吉田
	婦人科	野間	伊藤	高橋	吉田	橋本
	不妊	—	伊藤	—	伊藤	—

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
皮膚科	初診	戸井	山田	戸井	山田	戸井
	再診	山田	戸井	山田	戸井	山田
	再診※	—	江草	江草	江草	—

※9:30～

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
泌尿器科	初診	荒巻	三枝	別宮	井口	上杉
	再診	井口	上杉	荒巻	三枝	荒巻

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科	初診	井口	江草	綾田	岡	13:50/綾田
	再診	綾田	岡	江草	井口	24週/江草
頭頸部外科	午後	アルレルギー外来	14:00～14:30	江草	—	13:50/江草
	副鼻腔外来	14:30～15:00	綾田	—	—	24週/綾田
中耳炎・聴聴外来	14:00～15:30	井口	—	—	—	

※10:30～

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
眼科	1	原	—	原	原	武田
	2	岡野内	岡野内	橋本	—	岡野内
	3	武田	武田	山根	山根	山根
斜視	—	—	山根	山根	—	—

※ただし、火・木曜日の受付時間は午前10時までです。

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
神経内科	1	好永	好永	佐々木	神崎	和田
	2	日域	和田	神崎	日域	神崎
	3	佐々木	日域	上利	好永	佐々木
	4	田中	高石	三船	高石	三船
	5	上利	近藤	和田	田中	近藤

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
放射線科	午前	影本	影本	榎本	榎本	影本
	午後	榎本	影本	榎本	榎本	影本
	診断	全日受付	浦島・西原・松浦・本山・中村・石川	—	—	—

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
ペインクリニック(休診中)	—	—	—	—	—	—

諸般の事情によりペインクリニックを一時休診しています。皆さまにはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承くださいませ。よろしくお願いいたします。

診療科目	診察室	月	火	水	木	金
歯科	初診	中野	澤木	中野	佐藤	澤木
	再診	中野	澤木	中野	澤木	中野
	午前	澤木	鄭	澤木	鄭	澤木
	午後	鄭	佐藤	鄭	佐藤	鄭
	歯科口腔外科	インプラント外来	予約外来	予約外来	インプラント外来	予約外来

各診療日の担当医師につきましては、医師の異動等により変更させていただく場合がありますので、ご了承ください。

かがわき

No.

6

編集・発行 広島市立広島市民病院
〒730-8518 広島市中区基町7番33号
TEL 082-221-2291 (代表) FAX 082-223-5514
HP http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/

地域中核病院にふさわしい連携・相談業務の体制を強化します



副院長 佐々木高伸

私は、30数年間精神科医として総合病院での精神医療に携わってきました。副院長としての私に与えられている役割のひとつに、連携・相談業務があります。この仕事には、精神医療に不可欠であるソーシャルワークと

呼ばれる調整作業の経験が多少役に立っているかもしれません。

近年の医療、特に高度医療は、いかに優れた医療従事者であってもひとりで行うことはできません。総合病院では、各分野の専門家が互いの知恵と技術を出し合い、質の高いチームとして活動することによって高度・安全・安心な医療を提供することが可能になります。さらに最近では、病院間や福祉部門との役割分担によって地域全体で治療していく医療(地域完結型医療)のために、病院外の医療・福祉機関との連携による広い意味でのチーム医療も必要となっています。

こうした機能を担うために、当院には、他院からの紹介で受診される患者さまのための事前受付システムやできるだけ早く入院できるように院内のベッドの調整を担当する「医療連携室」、医療事故を未然に防ぎ医療の安全を確保するために活動する「医療安全対策室」、福祉分野との連携や療養に関する相談を主な業務とする「総合相談室」、退院後の在宅療養への橋渡しをする「オストミールーム」といったさまざまな部署での活動が行われています。これら

は、直接の医療行為ではありませんが、当院のような地域中核病院としての役割を持つ総合病院には不可欠で、病院を人の体にたとえると、各々の臓器の活動を結びつける神経や血管の役割を果たす機能といえるでしょう。従って、これらの機能が円滑に働いてこそ、病院全体が健康体で十分な活動ができるといえます。

今後、医療の高度化・専門化に伴って、こうした連携・相談機能はさらに重要性を増すと考えられます。そのため当院では、こうした部署を統括する『医療支援センター』(仮称)を設置して有機的な連携を図り、組織や人員配置も再編成することによって、連携・相談機能を強化することを計画しています。それによって、広島市民病院の血液がサラサラに、神経の伝達がスムーズになり、病院の体力が強化されて、より充実した医療活動が展開できると考えています。

新病棟の建設といった外面だけではなく、内面的にも進化していく広島市民病院の今後に期待してください。

基本理念

広島市の中核病院として、患者さまの立場を尊重し、質の高い医療を提供します。

…… 基本理念実現のための3つの柱 ……

1. 患者さまの立場を尊重し、信頼され満足される医療を提供します。
2. 地域医療機関との連携のもとに、急性期医療を中心に高度な医療を提供します。
3. 健全な病院運営に努め、良質で安全な医療を提供します。

外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分
* [眼科] 火曜日・木曜日
午前10時00分まで

休診日

土曜日、日曜日、祝祭日、8月6日
年末年始(12月29日～1月3日)

広島市民病院ボランティア募集

広島市民病院では、当院でボランティア活動をしていただける方を募集しています。

- 1 活動内容：患者さま(来院者)の院内の案内、受付の補助
患者さま用の図書整理、配布等
- 2 活動時間：月曜日から金曜日(休日を除く)8:30～16:30の間で活動可能な2～3時間
- 3 募集要件：心身ともに健康な方で、原則として週1回以上活動していただける方
(1) 応募いただいた方は、後日開催する事前説明会にご参加ください。
(2) 活動の前に健康診断を受けていただきます。
(3) 交通費、ボランティア保険料の費用等は自己負担です。
- 4 応募方法：お電話でご連絡ください。

ボランティア申込みに係る問い合わせ先

〒730-8518 広島市中区基町7-33
広島市民病院 事務室庶務係 ☎082-221-2291 内線2112

広島市立広島市民病院で電子カルテが始まります



電子カルテとは？



カルテは正式には診療(記)録と呼ばれ、患者さまの診療に関する記録の総称です。病状や検査結果など全ての診療内容はこのカルテに記録・保存されており、極めて重要なものです。このカルテが電子的に記録・保存され、病院内のネットワークを通じて利用される仕組みが電子カルテです。当院ではこれまで紙にかかれた(一部印刷された)カルテを使用していましたが、平成18年5月8日より電子カルテシステムを導入します。

なぜ電子カルテが必要なの？

従来の紙カルテの問題の一つは手書きであることです。自慢にはならない話ですが医者の方が読めないなどという笑えない話があります(情報伝達の不備)。また、紙のカルテは一冊であり、同時に複数の医療スタッフが離れた場所で見ることができないため、記録や参照をリアルタイムに行うことが困難です(情報共有の壁)。また、当院では70万人を超える患者さまが登録されており、現在院内で管理される紙カルテは13万冊、その総重量は約26t(!)と膨大な数量で、医療の高度化により診療情報はさらに増え続けると考えられます(診療情報量の増大)。こうした問題の解決には診療情報の電子化=電子カルテが不可欠なのです。

私たち広島市立広島市民病院の電子カルテの目指すもの



1. 医療の質のさらなる向上
2. 患者さまへのサービスの向上
3. 経営の効率化

医療の質の向上

医療スタッフ間で患者さまの診療情報を共有することで質の高いチーム医療を実践します。電子カルテでは、書き写しなどの情報伝達ミスの可能性が極めて低くなり、診療情報の確認が容易となり、より安全性の高い医療とその記録ができるようになります。電子カルテに蓄積された診療情報は様々なデータとして分析、活用され最適な治療方法を選択する助けになります。

患者さまへのサービスの向上

電子カルテでは様々な指示が直接記録され、伝達もスムーズですので、より効率のよい診療が可能となります。外来診療は原則として完全予約制となります。予約外で来院された患者さまも、当日再診受付器で診療時刻の目安がつかようになりますので、待ち時間を有効に活用できるようになります。また、蓄積されたデータはいつでも、院内のどこからでも見ることができ、患者さまにデータを表示してよりわかりやすい形で説明が可能となります。



経営の効率化

きびしい財政状況のもと病院経営にも効率化が求められています。電子カルテによって業務が効率化され、データ分析により効率的な病院内業務への見直しなどに役立ちます。

患者さまへのお願い

電子カルテシステムの導入は患者さまの診療に大きく貢献してくれるものと信じています。実際に入力するのはパソコンと同じキーボードが中心で、電子カルテに移行直後は診療において入力に手間取ることが予想されます。新棟への外来移転とあわせて、患者さまにはご迷惑をおかけする場合もあるかと存じますが、何卒、ご理解ご協力をお願いいたします。



電子カルテになると何が変わるの？

薬剤業務・看護業務もさらに充実します

看護部

“患者さま、ご家族に安心していただける看護を提供します”この目標のもとに電子カルテの導入を進めてきました。

【入院では】

患者さまに安心していただくためにはまず安全の確保です。ベッドサイドでの安全確保として、**携帯端末(PDA)**を使用して注射や輸血の実施時に、**患者さまのリストバンド**のバーコードと点滴ボトルや輸血バッグのバーコードを照合し、患者さまの取り違いや点滴・輸血の取り違いをチェックするを行います。また、使ってはいけない薬やアレルギーなどを電子カルテ上で確認し、注射を確実にします。

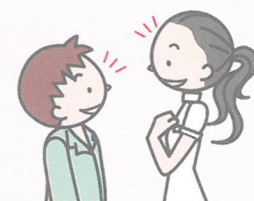
携帯端末PDA



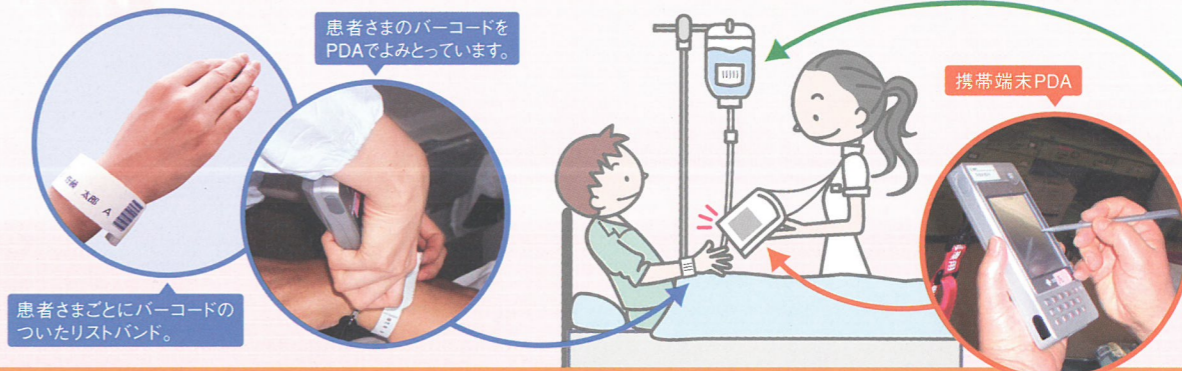
【外来では】

5月より、新棟での診療が始まります。外来診療は予約制を基本とし、患者さまには番号の表示で診療をお知らせすることとなります。電子カルテの導入により、どの科からでも患者さまの診療内容がわかり、迅速な対応ができます。

もうひとつの大きな変化は、診療アシスタントの採用です。これまで看護師は、診療室での事務的な仕事に追われ、患者さまのご家庭での療養上の相談ごとをお聞きできない状況でした。これからは看護師はもっと患者さまの近くで療養上の問題に細かく対応し、ご支援させていただきたいと思っています。これからも患者さま・ご家族に安心していただける看護を目指します。



次に、携帯端末を使用しベッドサイドで体温や血圧などのデータを患者さまのお顔を見ながら入力することができます。治療に必要な患者さまの情報を病棟看護師、医師、薬剤師、管理栄養士などのチームで共有し、患者さまが安心して療養できるように援助していきます。



患者さまごとにバーコードのついたリストバンド。

患者さまのバーコードをPDAでよみとっています。

携帯端末PDA

薬剤部

今回最も変わる服薬指導業務と注射調剤業務についてお話しします。

【服薬指導業務】

服薬指導業務とは、入院患者さまが安心、確実にお薬を服用できるように説明や質問にお答えする業務です。電子カルテはこの服薬指導業務に非常に役立ちます。これまでは、薬剤師の記録は、カルテとは別に薬局で保管されていました。これからは、薬剤師の指導記録を電子カルテに書き込むことにより、薬剤師の得た情報を医師や看護師に迅速に提供することが可能となります。電子カルテによる情報の共有化は医薬品による患者さまの不利益を回避し、有益性享受することに一層力を発揮します。

【注射調剤業務】

薬剤部では内服薬・外用薬だけでなく、注射薬も患者さまごとに揃えて病棟に払い出しています。これが正しく行われることが、安全対策のキーポイントとなります。今回、薬剤部では電子カルテにより正確な払い出しを可能にしました。**患者さまごと、投与単位ごとにバーコードをつけて調剤し、バーコード付きリストバンド**を装着した患者さまとの照合を容易にしています。また「注射自動払い出し機」は正確な調剤だけでなく、医師の処方を含めて過去も未来もチェックすることができ、医師の処方、薬剤師の調剤、看護師の与薬など各段階の安全管理に役立つのです。これからも薬剤部は、患者さまの薬物療法における安全性、確実性、適正使用を推進していきたいと考えます。

注射薬につけられたバーコード

